

# 職人の町の名匠

第4回目(大工)

豊田地区 齋藤吉雄さん



- ・昭和6年9月16日生まれ(87歳)
- ・家族構成 5人家族
- 齋藤 建築
- 大石田町大字豊田614番地
- TEL 0237-35-3607
- 平成12年度大石田町卓越技能者顕彰

## きっかけ

昭和20年、終戦時に尋常小学校高等科を卒業し、駅前の桐井要次郎さんに食糧難のため米2俵持参で無理やり弟子入り。5年間の修行と1年間の奉公を経て一人前に。25歳の時に婿養子に入り建築業を始めた。親子三代を目指して今は息子が継いでいる。

## 初仕事

南陽市宮内に寝泊りし木材を刻み東京へ送り出し隅田川近くの東駒形で革ジャン製造している人の家を建てた。見渡す限

## 北海道の思い出

弟子入りして3〜4年後、師匠達と北海道庁の仕事をした。合掌造りの建物を任されたが札幌の冬はとて厳しく指が凍傷になり入院した。真駒内では進駐軍の宿舎を建設。日高の開拓村ではアイヌの人達に酒を飲ませて仕事を手伝ってもらったりと、今思えば苦労は多かったが非常に懐かしい。

## 今の職人について

今は、弟子入りするよいうなことはせず訓練校等で習うことが多い。ハウスメーカーでは材料を組み立てるだけになり、きちんと大工の仕事を覚えなくても出来てしまう。心配な事だ。

## 町へひびく

新庄まつり、青森のねぶた、秋田県の紙風船上げなど各地では世界遺産となるようなまつりがある。大石田は少し盛り上

## 手がけた自慢の建物

平成5年に尾花沢市行沢地区のログハウス、平成26年に川前地区の八坂神社、井荻良治さん宅など。



自慢の作品「八坂神社」(川前)

## 議員からひびく

インタビュをしてみて、朴訥ながらも厳しい職人氣質が表情に現れており、これまでの多くの経験が、そのしわに刻まれていて、あつた。(記 小玉)

## 表紙の写真

大石田町立大石田南小学校の入学式です。晴れやかな日差しの中、13人の新入生を迎えました。上級生のあたたかい拍手の中、恥ずかしそうに入場です。これから楽しい学校生活を送ってください。

## 議会を傍聴しませんか

◆次回の定例会は  
**6月3日(月)～6月7日(金)**の予定です。  
お気軽においでください。(議場は役場3階です)

お問い合わせ先 大石田町議会事務局  
電話 35-2111(内線312) FAX35-2118

## 編集後記

永楽の古き寺領を戴きて  
永和三年(一二七七年)開創された黒龍山向川寺(黒滝地区)について元禄二年(一六八九年)に大石田を訪れた松尾芭蕉が詠んだ句だ。

さみだれをあつめて

全国的には「あつめてはやし」だが、大石田では「すゞし」と詠んでいる。町の誇れる歴史と文化である。町民としては「すゞし」を広げるべきと思う。かつて三百を超える舟が往来し栄えた町も、今では人口減少が進み、町の存続が危ぶまれる時代となった。残すものと改革するもの、多様なものがあつていいのではないか。町の活性化は誰もが望むところだ。前途は多難だが我々議会も頑張る。(記 遠藤)

## 広報常任委員会

- 委員長 村形 昌一
- 副委員長 岡崎 英和
- 委員 小玉 勇
- 委員 遠藤 宏司
- 委員 芳賀 清